

令和6年度相模原市協働事業提案制度 公開事業報告会

もくじ

- P 1
事業評価及び公開事業報告会の方法
- P 2
公開事業報告会スケジュール
- P 3
自己評価指標等の一覧
- P 5
各事業のふりかえりシート
及び過去の提出書類一式

日時 令和6年6月9日（日）午前10時～

会場 けやき会館 2階 大研修室（会場）

小研修室（控室）

事業評価及び公開事業報告会の方法

1 事業報告会の対象となる事業

協働事業提案制度を活用しての事業実施は最大3年度まで可能で、令和5年度は6事業が行われました。このうち、今回の事業報告会で成果等を発表するのは次に該当する事業です。

○令和5年度が最終年度となるもの（2事業）

※令和5年度が1年目で次年度継続を希望する事業の進捗等については、10月頃開催予定の中間ヒアリングで報告します。

2 報告書（ふりかえりシート）の作成

事業報告会に先立って、協働事業の過程や成果を自己評価する報告書（ふりかえりシート）を、実施団体及び事業担当課双方の合意により作成していただきました。

3 評価の数値化等

ふりかえりシートには、事業の概要のほか、事業の達成度などを記号化・数値化して示してあります。

自己評価指標

「パートナーシップの原則」、「取り組みにあたっての関係性のふりかえり」、「事業の妥当性と効果」、「協働したことの効果」の4区分について、A（80%以上できた）、B（60%以上できた）、C（十分にできなかった）の3段階で評価を行いました。

自己評価点

A～Cで評価した4区分をさらに19に細分化し、a・b・c・dの4段階でチェックのうえ、a＝4点、b＝3点、c＝2点、d＝1点と置き換え、76点満点で点数化しました。

4 報告会の方法

1事業あたりの事業結果報告は10分間です。それを受けて、審査会による質疑応答（8分程度）を行います。

令和6年度 公開事業報告会スケジュール

日時 令和6年6月9日(日)
 午前10時~11時40分
 会場 けやき会館 2階 大研修室
 (控室) 同2階 小研修室

進め方

団体及び事業担当課は、協議の上「ふりかえりシート」を事前に作成。
 当日は、原則としてパワーポイントを使用し、成果報告を実施。(10分)
 報告を受け、審査員が質問や助言を行う。(8分)

時間	区分	内容	事業概要	団体名	事業担当課	最終年度
10:00	審査員オリエンテーション					
10:15	開会					
10:20	市民	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業	人口減少の時代にあって、「住んで良かった」と思えるまちづくりに貢献するために専用HPの運用、移住・定住に関する全般的な相談事業、中山間地域の住環境整備及び空き家対策等の事業を実施する。	藤野観光協会	緑区役所地域振興課 シティプロモーション戦略課 住宅課	令和5年度
10:40	市民	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり	規格外や賞味期限間近の食材が廃棄されている一方、明日の食事にも困る世帯に食材を適宜配布することで循環型社会を実現させ、食の格差を削減することで、市民の暮らしの満足度を高めて、子どもや若者をはじめ誰もが生涯にわたり活躍でき、笑顔と希望があふれるまちを次代につなぐことを目指します。	フードコミュニティ	青少年学習センター 子育て給付課 資源循環推進課	令和5年度
11:00	閉会					
11:10	相模原市市民協働推進審議会による意見取りまとめ(非公開)					
11:40	終了					

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

① 10:40 終了	事業の名称	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業																		
	事業実施団体	藤野観光協会																		
	事業担当課	緑区役所地域振興課、シティプロモーション戦略課、住宅課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

② 11:00 終了	事業の名称	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり																		
	事業実施団体	フードコミュニティ																		
	事業担当課	青少年学習センター、子育て給付課、資源循環推進課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点(a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →		1		
事業の名称	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業				
団体の名称	藤野観光協会				
事業担当課	緑区役所地域振興課、シティプロモーション戦略課、住宅課				
事業の概要	人口減少の時代にあって、「住んで良かった」と思えるまちづくりに貢献するために専用HPの運用、移住・定住に関する全般的な相談事業、中山間地域の住環境整備及び空き家対策等の事業を実施する。				
具体的な取組みの状況	<p>(1) 移住・定住促進事業のPR 令和3年度 移住体験ツアー4回開催。県主催移住セミナー1回参加。専用HP「里まっち」ページビュー数46,729。 令和4年度 移住体験ツアー3回開催。県主催移住セミナー2回参加。専用HP「里まっち」ページビュー数34,686。 令和5年度 移住体験ツアー4回開催。県主催移住セミナー参加申込済み。専用HP「里まっち」ページビュー数29,745</p> <p>(2) 移住・定住のための総合的マッチング業務 令和3年度 問合せ件数160、面談件数64、マッチング件数17世帯36名 令和4年度 問合せ件数119、面談検数53、マッチング件数11世帯21名 令和5年度 問合せ件数120、面談件数68、マッチング件数17世帯35名</p> <p>(3) その他の取組み 令和4年度に「里まちの家」購入ガイドを作成した他、3年度間を通じて、 ①コロナ禍での働き方・暮らし方の変化に対応した移住促進、②中山間地域にマッチした「里まちの家」化推進、③金融面からの支援（金融機関と連携）、 ④法的問題の処理（司法書士と連携）等の取組みを行った。</p>				
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業PRの実施（移住体験ツアー、移住セミナー、HP「里まっち」等の企画、運営） ○移住・定住希望者に対する相談業務、物件案内、契約業務補助 ○不動産所有者に対する不動産の利活用促進相談業務 ○空き地・空き家のリサーチ業務 ○事業費の負担 				
	<p>市の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マイホーム借り上げ制度」（（一社）移住・住みかえ支援機構（JTI）が実施）の周知 ・「空き家バンク」の共有 ・県移住セミナーへの参加 ・市政全体の観点から本事業に必要なアドバイス等を行うこと 				
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内都市部居住者の中山間地域への移住、二地域居住の実現 ○市内外からの移住者の増加による地域活性化の実現 ○使用されていなかった不動産売買または賃貸化による経済効果の実現 				
	<p>行政の効率化につながった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政では対応が難しい個別の相談ニーズに呼応した移住及び定住への対応 ・現地の最新の空き家情報を入手することによるマッチング業務の実現 				
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。 これまでの実績を踏まえ、緑区役所地域振興課と連携して、令和6年度以降も移住・定住促進事業が実施できる運びとなり、「相模原里まち移住・定住促進事業」としてスタートする。 また、移住希望者からの要望が多かったお試し移住体験（4泊5日）を令和6年度に試行する。（6組予定）</p>				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	15,033,662	円	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			4,411,051円	5,047,064円	5,575,547円
上記のうち市負担金	11,704,000	円	年度	年度	年度
			3,922,000円	3,891,000	3,891,000円

事業の名称		「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業			
次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。					
A：協働の基本原則・・・		協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))			
		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いとその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 行政がもつ社会的信用力と団体がもつ良い意味で公平性にとらわれないという利点をそれぞれ生かすことができた。事業目的が社会的ニーズにこたえ、また時宜にかなったものである点は当初から共有でき、役割分担は明確であり、機能的に事業展開をすることができた。	自己評価 A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))			
		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 必要に応じて打ち合わせを行い、また日常的にメールなどにより実施状況の確認、意見交換をするなど、連携はスムーズに行えた。協働に当たって、双方とも特別な負担感はなく、事業を通じて双方の信頼関係はより増したものと考えている。	自己評価 A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))			
		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) これまでの問合せ件数等の実績からして事業は社会的要請にマッチし、目標以上の成果を上げている。それに伴う経費の使用は適切なものであった。人口減少が言われる中で本事業は継続していく意義が高く、さらに重要性が高まっていくものと考えている。	自己評価 A			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	本事業は行政と団体が協働して地域課題に取り組むという意味で、「新しい公共」の考え方を具現化するものでもあった。役割分担は明確であり、その相乗効果もあって、地域社会に大きなインパクトを与えた。不動産業者等様々な業者との連携は新たな事業主体の創造につながるものであった。	A			

E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
協働による事業は商業ベースではなく、一定の公共性をもって行われたため、移住・定住希望者、不動産所有者の本事業への信頼は相当に厚いものであった。移住した後も事務所に来て近況報告をして下さる方が少なくないが、これもそのことの証左である。	移住希望者に対する地域情報や空き家情報といった行政では手の届きにくい分野に対し、豊富な情報網と経験を有する実施団体が、それらを十分に活かしながら、移住・定住希望者のニーズに応えることができたものと考えている。

F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
移住・定住希望者の増加に対して空き地・空き家の利活用は思うようには進んでいない。そこには中山間地域特有の不動産に対する「固執」のようなものがある。これを取り除いて流通を円滑にしていくための協働は今後より改善していくべき点であろう。	藤野地区に対しては十分な相談対応ができていたが、今後、津久井・相模湖地区への物件対応をさらに充実できれば、移住希望者のニーズに広範囲に対応でき、更なる事業展開が期待される。

G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
地域課題を解決する手法はいくつか考えられようが、私たちが経験した本事業は行政と団体がそれぞれの役割を尊重し、利点を生かしていくというものであり社会的信頼も大きなものがある。このような手法が様々な面で展開されることを期待する。	市だけでは対応できない地域の情報やニーズを的確に捉えられる団体と協働で事業を展開するメリットは大きい。双方の強みを生かすことができるため、非常に意義のある事業である。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
相模原市の総合計画、緑区の基本計画はともに中山間地域の振興を謳い、そのための体制も整えられつつある。これまでの団体の実績を踏まえ、今後とも協働して人口減少時代の諸問題を解決し「住んでみたいまち相模原」をめざしていきたい。	協働事業で得た地域・団体・企業など様々な繋がりが、この事業の支えであると感じているので、引き続き、繋がりを大切に、幅広い視野と多様な発想で取組が進めば良いと思う。

写真添付欄



コメント記載欄

令和5年度開催の移住体験ツアーの様子。HP里まっちを通じて移住相談があり、「高齢の両親のために終の棲家として、温泉から500m以内のところ」を条件として物件を探してもらいたいとの依頼により、藤野やまなみ温泉から200mに位置する土地を紹介、平屋で使い勝手の良い自然住宅（里まちの家）を新築し移住したお宅へ訪問。

このツアーの参加者は子どもを含めて26名、ツアーを通して移住後の生活の様子を具体的に聞くことができ、皆さんに十分満足していただけた。

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度に実施した中古住宅のインスペクション（住宅診断）の様子。中古住宅の購入に当たっては耐震など住宅の構造に問題点がないか確認し、結果によっては必要な工事を行うことになる。インスペクションに続いて維持保全計画を作成し、管理していく。これによって中古住宅購入者は安心して購入し、住むことができる

写真添付欄



コメント記載欄

地区約80年の古民家をリノベーションして移住した方の家。アメリカ人の夫と日本人の妻とその子供たちが暮らす。リノベーションに当たっては設置されていた神棚を整理する必要があったが、日本の習慣にのっとり、神主をお願いしてお祓いをしていただいた。移住が思わぬ文化理解につながった例である。インスペクションの実施、自然素材への拘り（漆喰、無垢板）、セルフリノベ（壁）

写真添付欄



コメント記載欄

令和4年度に作成したパンフレット。本事業では中山間地域の自然環境にマッチした住宅、「里まちの家」を推奨しているが、このパンフレットはそれを実現するための具体的なガイドブックである。景観のみならず、自然素材の使用にもこだわる。また、「里まちの家」提携ローンの紹介も行っている。

今年度増刷予定

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →		2		
事業の名称	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり				
団体の名称	フードコミュニティ				
事業担当課	青少年学習センター、子育て給付課、資源循環推進課				
事業の概要	規格外や賞味期限間近の食材が廃棄されている一方、明日の食事にも困る世帯に食材を適宜配布することで循環型社会を実現させ、食の格差を削減することで、市民の暮らしの満足度を高めて、子どもや若者をはじめ誰もが生涯にわたり活躍でき、笑顔と希望があふれるまちを次代につなぐことを目指します。				
具体的な取組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブ品の集荷 ・市民や企業からの食材集荷 ・子ども食堂への食材運搬 ・子育て世帯への食材配布 ・フードロス削減を目的とした講演 ・フードロス削減を目的とした各種イベントに参加 				
役割分担	実施団体の主な役割 規格外や賞味期限間近の食材を支援を必要としている子育て世帯へ配送し、食品ロスの削減に繋げるとともに格差社会を是正する。 また、子育て世帯の親と直接接することで、必要に応じて市の必要な機関へ繋ぐ役割を果たす				
	市の主な役割 一人親世帯等、団体が支援したい世帯に向けて情報発信 子どもや子育て家庭等へ支援希望のある企業と団体とのマッチング				
事業効果	市民ニーズに対応できた点 食材を受け取りたい世帯のニーズに応え、受取日時や時間など細かく対応した。 生鮮食品等は、支援者からの申し出後すぐに対応する必要があるが、この3年間迅速に対応していただき、支援者からも利用者からも感謝の声を多くいただいた。				
	行政の効率化につながった点 行政では手が行き届きにくい部分を担っていただき、食品ロスの削減の推進と、食を必要とする家庭や子どもの支援に繋がった。				
事業終了後の方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	3,960,091	円	3年度	4年度	5年度
			1,520,632円	1,315,000円	1,124,459円
上記のうち市負担金	3,078,000	円	3年度	4年度	5年度
			1,341,000円	1,052,000円	685,000円

事業の名称	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり
-------	----------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 行政の役割、団体の役割を互いに認識し事業を推進できた。 広報さがみはらやHPで随時団体の活動について発信した。	自己評価			
		A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 定期的な打合せを設け、お互いに求める役割について話し合えた。	自己評価			
		A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 計32,000kgを超える食材を運搬し、支援を必要としている方へ配送していただいた。 食材運搬量や活動日数を鑑みると、目標以上の取組みであったと考えられる。	自己評価			
		A			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	団体の積極的な活動により、フードバンクの活動について市民・企業に認知していただける機会が多くなり、寄附の申し出等も増えた。	A			

E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> 事業が拡大した ★食材提供者の増加 ★活動支援企業とつながった ★配布対象者の増加 ★メンバーの増加 信頼性の向上 知名度アップ 食品ロス効果の向上 	<p>市民に寄り添った対応をしていただいた。3年間迅速な対応をしていただき、多くの方を対象に支援を行えた。</p> <p>団体の活動により、フードロス削減に対する意識や子ども食堂等への支援の意識が企業や農家に醸成された。</p>

F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> 事業が拡大したことによる持続性に課題が生じた。 ★資金調達 ★活動メンバーの確保 ★倉庫の確保 ★子育て家庭の募集方法 	<p>食品ロス対策の一環として、資源循環推進課が市側の担当の一部として団体への食品提供対応を行ったが、事業の内容的には食品ロス対策の側面以上に福祉の側面の方が大きいと感じた。このため、食品ロス対策以外に、通常の食品の寄附も併せて行った方が効率的であると感じた。</p>

G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> 団体を立ち上げた最初の3年間は、相模原市市民・行政協働運営型市民ファンド「ゆめの芽」の助成を受けながら協働事業への道を模索した。 提案にあたっては、団体として何をしたいのかを明確にし、どの担当課がふさわしいか等、協働する担当課との事前協議が大切である。 事業開始後は、定期的に担当課とミーティングを行う 	<p>斬新な提案、行政だけでは取組むことが難しい提案等、皆様からの提案をお待ちしています。</p>

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> 協働事業終了後も、子育て家庭はじめ生活困窮世帯や高齢者世帯向けに、食材配布活動を継続していきたい。 団体独自の事業とするには、資金や保管場所等に課題があるため、団体としての資金獲得に事業化は勿論企業や団体行政からの事業の継続のための支援 	<p>協働事業としては終了しましたが、引き続き協力していきたい。</p>

写真添付欄

食材集荷活動



コメント記載欄

【食材集荷活動】
 ・個人や各種団体・企業様からの 食材提供に応じ 随時集荷する。
 【定期的な活動】
 ・オギノパンの集荷と配送：月2～3回
 ・セカンドハーベストジャパンの集荷：月1回
 ・フードバンクかながわの食材集荷と配送：月2回
 ・山崎製パンからのパンの集荷：月2～4回（抽選）
 ・パルシステム神奈川の食材集荷と配送：月1回
 ・相模原市資源循環推進課からのフードドライブ 集荷と配送：月1回

写真添付欄

食材セットアップ・配布活動
 子育て家庭向け会場配布の活動



生活困窮世帯向け食材の箱詰め・配布活動

コメント記載欄

【食材セットアップ活動】
 ・フードドライブ品など頂いた食材を、賞味期限 食材の 種類等に仕分けして保管する。
 ・子育て家庭向けに、令和5年度は会場配布のみとし計 70世帯に配布する仕分と、子どもが3人以上の家 庭には、多子世帯用食材をセットした。
 ・会場配布の方には、農家さんなどでいただいた 野菜類 やオギノパンも、70世帯への袋詰め。
 ・会場配布に来られなかった世帯への戸配のセッ ト

写真添付欄

食材提供活動
 こども食堂への食材提供



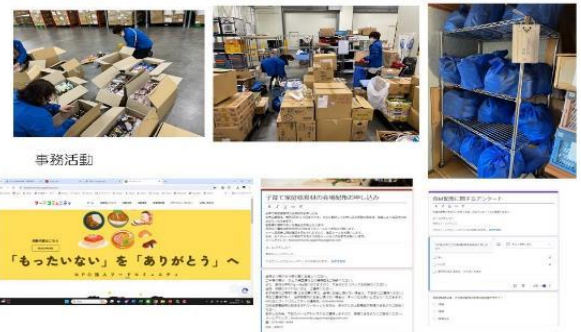
子育て家庭への食材提供（会場配布）

コメント記載欄

【食材配布活動】
 ・オギノパンの配布：こども食堂への食材配布月2回
 ・フードバンクかながわからの食材配布：月1回
 （対象 子ども食堂：4～5軒/月）
 ・フードドライブ品の配布：随時
 ・子育て家庭会場配布：月2回35世帯/回（70世帯/月）年間840世帯
 ・会場配布に来られなかった世帯へ個別宅配：月2～3世帯
 ・農家などからの野菜の配布：随時

写真添付欄

食材管理仕分活動



事務活動

コメント記載欄

【事務活動】
 ★会計業務
 ・消耗品や設備品の会計処理
 ★電話受付
 ・食材提供依頼の対応
 ・子育て世帯へのコールセンター受付の方の電話 連絡
 ★メール受付け対応
 ・フードバンクかながわ等からの食材提供明細の 確認
 ・食材提供の連絡（登録団体へのメール配信）
 ★広報活動
 ・ホームページやFacebook等による活動報告・ 食材提